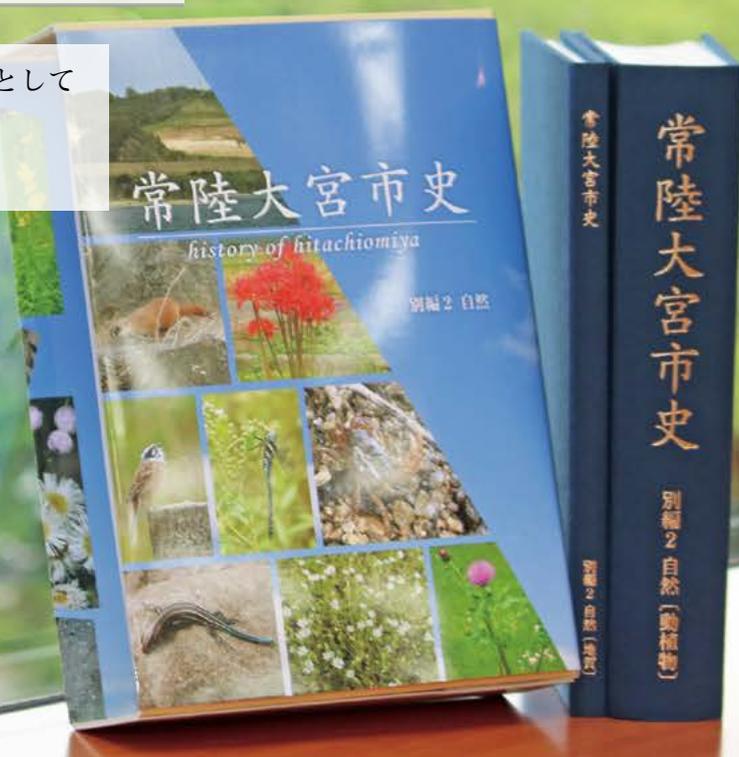


常陸大宮市史 発刊

およそ30年ぶりとなる、本格的な自治体史として『常陸大宮市史』が新たに誕生します。記念すべき第1冊目のテーマは『自然』。



本格的な自治体史の編さんへの取り組み

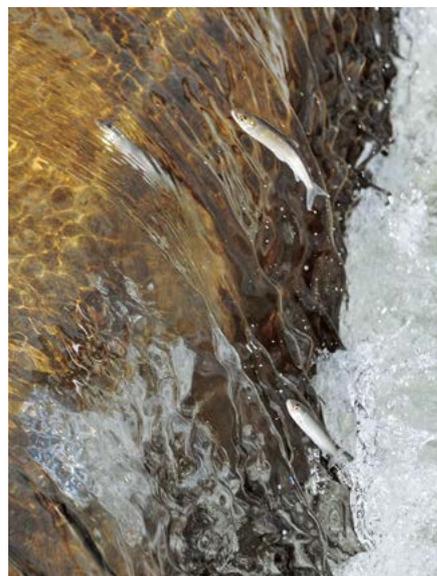
『常陸大宮市史』とは、市域の歴史・文化・自然環境等を総合的に調査・研究し、編さん・刊行する「市史編さん事業」において刊行を行うものです。

本市に合併する前の旧町村の自治体史である『大宮町史』『山方町誌』『美和村史』『緒川村史』『御前山村郷土誌』が刊行されたのは、新しいものでも今から30年前、古いものでは50年前になり、新しい調査手法や研究成果に基づく新たな市史の編さんが望まれていました。2000年代以降、本格的な自治体史編さんは、県内はもちろん、県外でもわずかで、常陸大宮市の取り組みは全国から注目を集めています。およそ30年ぶりの自治体史編さんとして、平成28年度から実施されている本市の市史編さん事業では、市内外で活躍する様々な分野の研究者の方々にご協力をいただき、調査が進められています。今後、考古、歴史、民俗等のテーマ別に全10巻を刊行する予定です。市の歴史や文化、自然を新たな切り口で深く掘り下げ研究した『常陸大宮市史』。その成果は、市の文化遺産として、今後の活用のための基礎情報となるものです。市民の皆様にもぜひご活用いただきたいと思っております。

また、調査の成果を広く市民の皆さんに知っていただくため、市史セミナー（講演会）の開催や『常陸大宮市史研究』の発行などを行い、その活動の周知に努めています。



▲ 2011年に野上地区で発見されたステゴロフォドン頭蓋化石



▲ 遡上するアユ／小場地区
(撮影：佐藤 次男)